



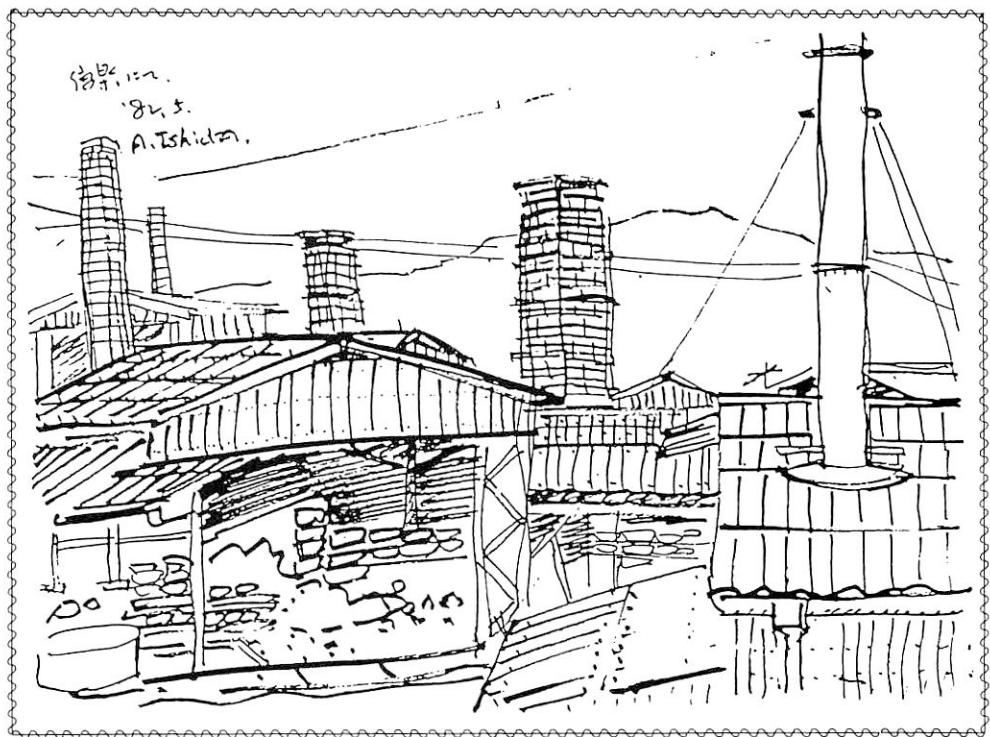
発行所
燎原社

〒606 京都市左京区高野
西開キ町 34-11
社団法人 部落問題研究所氣附
電話 京都 721-6108番(代)
振替口座 京都 6-15762番

発行人

木村 京太郎

1部 200円(元共)
頒価 年 2,000円(元共)



煙突のみえる窯場の町

石田 昭子

予告

第26回 六月例会ご案内

本会の第二六回の六月例会を、次のとおり開きます。

一とき 六月二十四日(木)午后一時半
一ところ 中京区竹屋町河原町東入る
京都職員会館「かもがわ」

一テーマ 京都における戦後共産党の
再建について

一ゲスト 細川三酉氏

戦後、京都の共産党が、再建に向つてどのように動き、どのような方針で活動してきたかを、当時の活動家でおられた細川さんを中心に苦労話を語っていただきます。多数の皆さんご参加のほど、お願いします。

一参加費 一名五〇〇円(茶菓代共)

京都の民主運動史を語る会

折にふれて

—二条—

巧みなる木版画の面白さ人も道具も

寸に足らねど(春規展)

山をぬく五重の塔の味深し広がり増

して春規の天地

母の日も年寄りの日も空ぞらし日の
制定が何になるとか

春蒔きの種子もおろさで世の中に腹
立てながら老いづきにけり

編集部よりのお願い

各方面の方々からの、隨想、偶感、
近況および、和歌、俳句など、お送
下さいますようお願いします。
はがき通信によって、会員、誌友の
交流をはかりたいと存じます。

労農党の評価をめぐる諸問題

佐々木 敏 二

本会の第25回定例研究会は五月十五日午後一時半から、青葉かおる鴨川べりの京都市職員会館「かもがわ」で開かれた。出席者二十余名、熱心な話合いがなされました。

最初佐々木先生から「大正末期から昭和初年にかけての山本宣治、河上肇をめぐる京都の民主運動について」のテーマは、河上肇の研究を充分にしていないことと、種々の問題点があり、当面の所は無理だから「労農党の評価をめぐる諸問題」について、レジメに添つて話したいと、前提され、要旨を次の如く話されました。

序 この時期の評価の困難

最初佐々木先生から「大正末期から昭和初年にかけての山本宣治、河上肇をめぐる京都の民主運動について」のテーマは、河上肇の研究を充分にしていないことと、種々の問題点があり、当面の所は無理だから「労農党の評価をめぐる諸問題」について、レジメに添つて話したいと、前提され、要旨を次の如く話されました。

* * * * *

この運動の指導的地位にあった山本宣治、大山郁夫、細迫義光、小岩井淨、河上肇などに対する評価の基準をきちんと設定しなおす必要があること、などの問題があります。細泊朝夫氏も立命館大学の産業社会学部の研究誌で、この時期の後半を主として論じておられますが、問題はもとより前の一九二五年当時から考える必要があると思ひます。

全国労農大衆党への大山派の合派にいたる左派の運動を考える場合、数多くの問題点にぶつかります。それは、(一)当時の左派の指導理論が、山川イズム、福本イズム、「二七年テーゼ」、コミニテルン第六回大会決定とめまぐるしく変化していることと、(二)「社会ファシズム」の理論がコミニテルン第七回大会で批判されていること、(三)コミニテルン第六回大会の決定である「合法無産政党否定論」が「日本共産党の45年」以降、自己批判の対象となつていいこと、(四)以上の点を考慮に入れる時に、この当時の運動の評価、特に当時

一、一九二五年、労働戦線の分裂と単一無産政党論について

この運動の指導的地位にあった山本宣治、大山郁夫、細迫義光、小岩井淨、河上肇などに対する評価の基準をきちんと設定しなおす必要があること、などの問題があります。細泊朝夫氏も立命館大学の産業社会学部の研究誌で、この時期の後半を主として論じておられますが、問題はもとより前の一九二五年当時から考える必要があると思ひます。

この時期のもう一つの問題は、政治研究会臨時大会での無産政党の規約をめぐる論争である。個人加盟を主張したのは鈴木茂三郎の東京の代表と長野県南信支部のみで、市川正一に代表される左派は個人加盟プラットフォーム加盟を主張した。単一無産政党に団体加盟を認める場合、たしかに評議会、政治研究会、無産青年同盟などの参加によつて左派の立場も強化されるが、総同盟など左派、中間派も強化される。これが次の時期の、無産政党結成準備会での左派除名論と直接つながっている。

日本共産党再建ビューローの方針は、「分裂への傾向をあくまで防止する」と「革新同盟を総同盟内部の永続的方針は左派の活動家にも不徹底であつたし、また徳田球一、渡辺政之輔がプロフィンテルンと連絡のため上海に渡航の留守中に、革新同盟の大会が開かれ、評議会の結成が決められた。この時、山川均は「今や分裂して自由な立場から独自な活動をするべきである」という立場で指導したといわれている。

本来、大衆団体はできるだけ分裂をさけるべきであり、「上海五月テーゼ」も分裂反対論であった。山川の「單一無産政党論」は、当時の状況では左派のみの政党は結党不可能に近い状況があつたらとすることを考慮に入れるとしても、労働戦線の分裂を肯定したうえで、無産政党は分裂をさけて單一政党でという面がある。本来、政党はその綱領の異なるに応じて別個の政党が結成されるのも当然であるから、山川は、大衆団体としての労組と政党について逆転した考え方を示していたといえる。

この時期のもう一つの問題は、政治研究会臨時大会での無産政党の規約をめぐる論争である。個人加盟を主張したのは鈴木茂三郎の東京の代表と長野県南信支部のみで、市川正一に代表される左派は個人加盟プラットフォーム加盟を主張した。単一無産政党に団体加盟を認める場合、たしかに評議会、政治研究会、無産青年同盟などの参加によつて左派の立場も強化されるが、総同盟など左派、中間派も強化される。これが次の時期の、無産政党結成準備会での左派除名論と直接つながっている。

二、農民労働党の禁止と労働農民党的結成

日本農民組合の提唱で開かれた「無産政党組織準備会」で、総同盟、官業労働、海員組合など右派、中間派は左派の排除を主張、左派は單一無産政党を主張、結党前々日に総同盟が脱退、翌日評議会が参加を辞退して、一二月一日辛うじて分裂をさけて結党大会を開いたが、結社禁止となつた。

第二次無産政党組織運動は、日農と官業労働の提唱で、当初から左派を排除して準備がすすめられた。一九二六年二月一三日の玉姫クラブでの第二回準備会で左派排除の申合せをし、三月五日「労働農民党」が結成された。左派は、労働戦線の分裂を政党問題にまで持ち込むまいという方針で「自発的不参加」という姿勢をとつたが、自己の主張である單一無産政党に自ら参加しないという矛盾した結果となつた。

三、門戸解放要求運動と議会解散運動

四月一八・九日の労農党第二回中央委員会で門戸解放が決議され、各地で地方支部づくりが進められたが、左派が中心となつた支部は本部が承認しなかつた。七月二十六・七日の第三回中央委員会では、評議会、無産青年同盟、大衆教育同盟（政治研究会）の左派三団体員の排除を決定した。左派は一方では、支部準備会の承認、門戸解放を本部にせざるとともに、南山城小作争議に端を発するとともに、南山城小作争議に端を発した「耕作権確立、團結権確立、議会解散請願運動」の指導を本部に要求した。このはじめての本格的

な大衆運動の高まりに直面して、右派、中間派は十月二十四日の第四回中央委員会で脱退し、十二月にそれぞれ社会民衆党、日本労農党を結党した。左派は、みずから大衆運動を広範に組織し、入党の条件を作ったと思つたとき、右派・中間派の脱退、分裂という結果をまねき、さらにそれに応じて、労働戦線、農民戦線も分裂し、各無産政党の直結するパーティンが成立した。

四、福本イズムとその克服

一九二六年十二月四日、日本共産党中央大会が開かれたが、徳田球一、渡辺政之輔ら第一次共産党事件の被告の服役中のことであり、しかもその指導方針としては、福本イズムが採用され、「分離結合論」に基づいて理論闘争が重視された。十二月十二・三日には労農党の大会が開かれ、左派を中心とする山郁夫委員長、細迫兼光書記長の体制がつくられたが、前年に広範に展開された議会解散請願運動も、当局による弾圧の強化と、福本イズム特有の現状分析や大衆運動の軽視によって弱まつた。しかし福本イズムの弱点は、京都五区の衆議院議院補選、その他各地での大衆運動の展開の中で次第に克服される方向に向つた。同年七月のコミンテルン日本委員会の決議「二七年ナビゲー」で、山川イズム、福本イズムはそれ批判された。日本共産党は、対外干渉運動などを労農党を中心として展開する中で、大衆化の方針を次第に定着させようとした。労農党は秋の府県会議員選挙などを通じて次第にその基盤を拡大しつつあった。

五、第一回普通選挙と 共産党の合法化

一九二八年二月に行われる第一回普通選挙を前にして、共産党は独自の候補者を十一名労農党から立候補させるとともに、二月一日には「赤旗」第一号を発行し、その存在を日本国民大衆面前に公然と表わし、ボスター、ビラ、伝單で主張と政策を発表した。無産政党間では独自候補のない所での選挙協力なども実行されたが、田中義政友会内閣の選挙干渉は悪らつをきわめ、大山郁夫の選挙区では候補者と事務責任者以外はことごとく検挙するという暴虐のかぎりをつくした。それで、も京都では一区、二区から水谷長三郎、山本宣治の二人を選挙させた。しかしこの選挙戦の中で最も活発に活動した共産党員や活動家は、合法、非法の両面の活動に未熟であつたため、当局に共産党的組織の所在を知られる結果となり、三月十五日の全国一斉大検挙となつた。共産党は三月一〇日前後に「組織上に関する指令」を発し、合法と非公法の問題、組織防衛に関する詳細な指示を発したが、すでに当局の一大検挙の方針が確立した後であった。この指示が、大衆化の方針と同時に末端まで激しくなつたばかりではなく、「目的遂行罪」が導入されて、共産党員ばかりでなく、党支持者をも罰することができるようになつていていた。そのためには新党準備会内部の労農党再建論にも、七月二二日に無産大衆党を結成するにいたる山川派、つまり「労農派」が居つたし、共産党と一線をかくすことを宣言して合法政党を作ろうということを主張する山川派、つまり「労農派」がいたし、また旧労農などの合法主義者がいた。一方の階級的伝統を守ろうという大山、細迫、山宣らの主流派も居つた。しかし國領も十月検挙で捕らわれてしまつた。

六、三・一五事件と 労農協議会論

三・一五事件について、四月十日に定着させようとした。労農党は秋の青年同盟が解散を命じられた。検挙をまぬがれた左派の労働者・農民・青年の基盤を拡大しつつあった。

などの活動家は新党準備会に結集し、「百たび解散、百たび結党」という姿勢で、労農党再建の活動に向つた。

しかしこの新党準備会の初期の、共産党的指導理論は三田村四郎の「労農協議会論」であり、即時結党論を日和見主義と批判し、共産党を中心として果敢なる闘争によつて工場、農村にいかなる暴虐にも屈しない組織を作るという方針であった。簡単にいえば労農党不要論である。しかし共産党が大弾圧をうけ、しかも左派の組織が工場や農村の末端には組織されておらず、旧労農党に対する大衆の信頼が強い時に、この方針は大衆を動かすことができなかつた。

八、左翼無産政党否定論と 新党結党大会

八月九月のコミニンテルン第六回国際大会に出席した市川正一は、十一月帰国したが、彼が持ちかえつたのは「植民地、半植民地に於ける革命運動に関するテーゼ」であり、それは、労働者と農民の二階級以上からなる無産政党同盟論である。日本に残つていた共産党中央委員は三田村のみであり、三田村も労農党否定論であった。このコミニンテルンの方針と三田村の労農協議会論が結合し、十二月五日の「無産者新聞」に無産政党否定論が発表された。全国の左派の闘士は十二月二二日から新党結党大会の準備に大忙な時であった。結党大会は三日目である二五日に解散を命じられ、結社禁止が言渡された。二八日には、共産党を中心とする闘争組織として、「政治的自由獲得労農同盟」として今後の活動をすすめることが発表された。ここに結集する者は共産党系であることは誰の目にも明白であり、その活動は困難をきわめた。それでも山宣はじめ旧労農党主流派は、三・一五事件被告の救援、帝國主義戦争反対、治安維持法撤廃の闘いに立ち、その頭に立つて奮闘した。市川奪還闘争や全国農民組合第二回全国大会などには農民戦線の統一と階級的立場の確立などの方向があらわれてきていた。

九、山宣、渡政労農葬と 四・一六事件

共産党と政連労農同盟は三・一五事件の一周年に、前年十月台湾キールンで死んだ共産党書記長渡辺政之輔の葬儀も十月検挙で捕らわれてしまつた。

目で見る京都の民主運動史 (4) 労働運動の高揚

湯 浅 貞 夫



(1) これは大正十四年、改造に発表された細井和喜藏の「女士哀史」の中に掲載された女工小唄の一節である。一日十時間以上の過酷な労働。イギリス労働者の八分の一の低賃金。日本の労働者は誠に悲惨な情況であった。この中から労働者階級は自から団結して組織をもつようになつた。一九二二年(大元)鈴木文治等による労働者の親睦団体としての友愛会の結成、一九二一年の日本労働総同盟への發展。



(2) 一九二五年総同盟から左翼組合が除名され日本労働組合評議会ができた。太郎と、それはやがて総同盟の陶磁器工組合へと発展する。

一九二二(大一一)共産黨の創立翌々年二四(大一三)には京都で最初のメーデー、一九二五(大一四)には全国と呼応して労農党や無産青年同盟の組織がつくられるようになった。

（写真）
（1）、この写真は一九二五(大十四)神戸での日本労働組合総同盟の大会。大会参加の組員達。京都からは奥村甚之助はじめ神田兵三、桂信三、若き日の谷口善太郎や国領五一郎、大阪木材の長壁民之助、神戸の青柳善一郎や坂野勝治などの顔がみえる。（写真：謝郡長壁家蔵）

（2）、一九二三(大一

二） 京都奥村電機の争議、門前に群がる労働者（亀岡木村家蔵）
(3)、労農党主催の失業者大会のボスター、働くかせる、食わせろ、

一〇、新労農党樹立の提案と左派の分裂

今回、この大正末から昭和六年ま

政黨労農同盟は、本来共産党を中心とする闘争組織であるが、四・一六事件で共産党は壊滅的状況であった。そのため左派の活動を指導する組織は一

時期の左翼無産政党否定論を、「進歩的な民主主義勢力の結集を妨げるセクタの方針だった」と自己批判している。そしてこの左翼無産政党否定論の影響は、さらにこの時期にもあらわれ

（前頁の四段目より）

一、労農党解消論とその後の労農党

一九三〇年二月第二回普選で、労農党は京都で河上肇と細迫兼光を立て闘つたが、ともに落選した。大山のみは東京で当選した。共産党的再建がすみ、一方では労農党が次第に合法政党として他の無産政党と大差のない活動を展開するようになるなかで、八月各地で山宣、渡政労農葬の行事が行われたが、一ヶ月後の四月十六日共産党中央大検挙が行われ、一月以降全国各地でやっと再建されつあった共産党の組織も激甚的に破壊された。

（日本共産党的五十年）では、この時期の左翼無産政党否定論を、「進歩的な民主主義勢力の結集を妨げるセクタの方針だった」と自己批判している。そしてこの左翼無産政党否定論の影響は、さらにこの時期にもあらわれ



（3）

する中央機関が必要であるという考え方、河上肇はじめ細迫、大山らが「新労農党樹立の提案」をした。しかし対する労農同盟派からの批判はきびしかつた。大山郁夫は「大山師」などといわれ、日和見主義者の典型として非難された。たしかに新労農党にいた者もおつただろうが、左派の戦線はこのために二分してしまった。

◇ 年輪記 (2)

関東大震災におもう

北牧孝二

一、大惨事

関東大震災は、私の人生觀を変えさせた大地震です。

大正十二年九月一日、午前十一時五十八分（M.G.7・8）東京、神奈川、千葉、埼玉と、関東の中心都市を襲つた大地震は、家屋の倒壊をはじめ、数百ヶ所に火災が発生し、九万余人が焼死するという大惨事でありました。

私は立命館の専門部を卒業して、念願の弁護士になるため受験の目的で上京し、夏を藤沢市内にある寺院で勉強していた時の出来事です。

大地震と共に農家も工場も全滅となり、老若男女は、周辺の竹藪の中に逃げこんでくるという状況の中で、あたりは、子供や年寄りの叫びや、泣き声で、阿鼻叫喚の巷となっていました。

その上震災の数日間は、地震のゆりかえしで、人々は生きた心地もなく失していました。

こうした中で人々がやつと自分にかえった時、町内に自警団の召集がありこれに参加すると、警察官の指示で、「暴力団や朝鮮人の不逞の分子が襲ってくるから市民は武装せよ」とのことでした。

二、右往左往の人達

私は大地震の翌日東京市内の友人の家を訪ねて上京しました。東京への道

は国鉄が不通のため、昔の東海道の旅によろしく徒步でした。やつと横浜の国鉄駅についたときには、日が暮れて、駅から見る市内は焼け野原で、港には舟のゆききがあつたが、工場も住宅もなくなつていました。

駅には罹災者が密集していて、これ等の人達は食べものをさかして右往左往していました。このときは既に一府三県に戒厳令が施行され、府、市民の生活は自警団の指示によることになつて、食べものを求めるにも憲兵を通さなければならなかつたのです。それも空腹をかかえた人達には、一個の玄米パンがやつとあたるという状態でした。

駅内に集まつた罹災者には、自警団長の訓示だといつて、憲兵から文書が手渡されました。そこには「忠君愛國の精神を忘れた曉には、我が国に最大の危機が到来するであろうしかも人々は近ごろ、その危機に向つて邁進しているようと思われる。國家主義と天皇中心主義は在郷軍人の基本の方針であるにもかかわらず、その我々の存在を無視するような危険思想をいだく不逞の輩をばびこらせておくことはできない。我々は思想善導の先頭に立ち、國体の精華を傷つけるようなあらゆる危険思想はすべて根こそぎ撲滅しなければならない。」とありました。

三、謀略

駅内に集まつた罹災者には、自警団長の訓示だといつて、憲兵から文書が手渡されました。そこには「忠君愛國の精神を忘れた曉には、我が国に最大の危機が到来するであろうしかも人々は近ごろ、その危機に向つて邁進しているようと思われる。國家主義と天皇中心主義は在郷軍人の基本の方針であるにもかかわらず、その我々の存在を無視するような危険思想をいだく不逞の輩をばびこらせておくことはできない。我々は思想善導の先頭に立ち、國体の精華を傷つけるようなあらゆる危険思想はすべて根こそぎ撲滅しなければならない。」とありました。

そうしたなかでまた、私達罹災者にはいつたのでした。そうしてその翌日あの警察と軍隊が協力しておこした虐殺事件で最も暴威をふるつた亀戸署内の事件がおこつたのでした。

四、亀戸事件

当時の東京市内の状態は、私の行つた江東デルタ地帯の（江東、墨田区）

労働者の住む工場街は焼野原となつて、罹災者の死体は手のつけようも

ない状態でした。隅田川の两岸には死体が溢れ、市内の工場や、労働者街で

いて、罹災者の死体は手のつけようも

ない状態でした。隅田川の两岸には死

体が溢れ、市内の工場や、労働者街で

ある江東区は特にひどかったです。

浅草橋以東、押上から亀戸への道路

上には半焦になつた死体が積み重なつ

ていましたし、本所被服廠跡に避難し

た労働者四万四千人が焼け死んだ事件

をみても、東京市が何の救援指導もし

なかつたことがバクロしています。

政府は戒厳令によつて、自警団長の訓示をおしつけ、罹災者の救援運動の先頭で闘つてゐる労働組合の指導者を

不逞の輩とみづけて宣伝し、民主的

な朝鮮の人達を社会主義者として抹殺

しようとしたし、また労働運動の盛んな

「南葛労働会」の幹部も含めて銃殺す

るという残虐な亀戸署事件をでつちあげたのです。私はこれらの経験を通して天皇制の本質を知り反動政府の正体

を学んだのでした。

京大滝川事件の歌
九 鉄生作

ここはお江戸を何百里
離れて遠き京大も
ファッショの光に照らされて

思えばかなし昨日まで
真先かけて文相の
無智を散々懲らしたる
勇士の心境変れるか
○

ああ戦いの最中に
俳句ひねりし総長が
勇士の心境変れるか
○

思えばかなし昨日まで
真先かけて文相の
無智を散々懲らしたる
勇士の心境変れるか
○

ああ戦いの最中に
俳句ひねりし総長が
勇士の心境変れるか
○

思えばかなし昨日まで
真先かけて文相の
無智を散々懲らしたる
勇士の心境変れるか
○

ああ戦いの最中に
俳句ひねりし総長が
勇士の心境変れるか
○

想
滝い
川出
教
授
事
件
の
頃
(3)

久し振りに学校へ行くと
「君、今日ピクニックに行かなんだ
のか。」と友達から聞かれた。
これは一矢打つや。

「一闘羊のしめくくりに、代表者が集
つて、洛北の方にピクニックをするこ
とになつて、今日、十一時に出町柳の
ところに集ることになつていたんや。
君に連絡がなかつたんか。」
「知らなんだなあ。しかし、もう十
二時過ぎてる。やめとくわ。」

私は行くことをおさりめたが実は、この時、集つた代表者達は全部バクられ、处分をうけた。その中に、同窓で文、丙（仏語を第一外国语とする）の増田盛君がいた。彼は一年の停学処分をうけ、その後高文をパスして、農林省に入り、高級官僚になり、現在は

東北地方から自民党の国會議員になつてゐる。

既に退官した教授も教壇に立つた。中島玉吉教授はその一人である。教授は民法総則を教えたがその授業に出て驚いた。教授のノートを一寸覗いてみたら毛筆で处处朱筆で書き加えられてゐる。昭和の時代に和じのノートで毛筆とは！何と時代離れていることが！更に、友人に教授の著作である「民法私義」を借りて開いて見て又吃驚。古色蒼然とした明治末期のこの著書の内容は、現在の講義の内容と一字も違っていない！成程民法の条文は変つて

防衛と侵略 英・ア紛争について

斎藤雷太郎

川頃（3）亨
解釈の内容が明治時代と同じとは一私はすつか義に出るのをやめにした。心に編集された雑誌に、同じ吉原の道行き」といふ記事にもなつて有名だな雑誌に、住谷悦治さ川事件を応援されていた。法学部学生が石山の方へ、星食の時に私に、いやかね。」眞意は「面白くもないスペインやイギリスとの間に、歴史的ないききつがいろいろあつたが、一八一六年アルゼンチンは独立した。しかし弱体であつたアルゼンチンに、イギリスの資本や、技術の大さな影響力が、残つていたままの独立だつた。一八三七年、イギリスは国益上の必要から、マルビナス（フォークランド）諸島の領有を宣言して、アルゼンチングの知事を追い出した。それ以後今まで、ギリスの実質的支配下にあつた。アルゼンチンは実力行動に出た。相方の

講義をよう聞きに行くネエ。」ということだつたのだろう、私はうつむいて何も言わなかつた。

もう此の頃になると、去年の雰囲気は殆どなかつた。私は三高に入学した直後友人にすすめられて、ブハーリンの「唯物史観」を読み、それに疑問を感じ、アイゼンベルクの「唯物弁証法教程」に共鳴し、ミーチンの「史的唯物論」も読んだ。又岩波の「資本主義発達史講座」もカジツた。頭のなかでは一応こうした政治的な物の見方を理解しながら、現実のこの事件の政治的意義については、殆どわからなかつたのである。二・二六事件が卒業間際におこつた。しかし本当にこれら一連の事件の政治的関係意義がわかつたのは、卒業し就職して現役入営し日支事変に遭遇し兵營の中で毎日新聞社のエコノミストを読んだ時代である。

心の中に願うたに。
空しく消えしその望み
京都へ帰る飛行機で
プロペラばかりが威勢よく
うなつて いるのも情けなや
○思えば円満解決の
望みが見えずなつた時
教授会で手を握り
固き結束誓うたに
○肩をたたいて口ぐせに
どうせ命はないものよ
辞めてもよろしく頼むぞと
言いいかわしたる教授陣
○思いもかけず軟派だけ
不思議の命ながらえて
暗いファッショの京大で
友の後金ねらうとは
○くまなく晴れた月今宵
心ほそぼそ筆とつて
古いノートでゴテゴテと
デツチ上げたるこの講義
○形ばかりはとのえど
マイクの前で学生に
聞かせる時をおもいやり
思わず冷汗一しづく

婦人運動・解放への傾斜

品角小文

嵐について

バリ革命のとき、婦人たちが叫んだ第一声は「パンを与えよ、参政権をみとめよ」。であった。また一九〇四年の三月八日のニューヨークの街角で、働く婦人の大集団が叫んだのも「パンをよこせ、婦人にも参政権を」であった。

日本に於いても、明治以来、数多くの先進的な婦人たちの血のにじむような婦人解放への熱意と運動の積み重ねを基盤とし、大敗戦の虚脱と混乱のなかで、支配層による婦人達への抑圧と非人間的な取扱いに対する抵抗が、ちようど似たようなことを起らせて。世田谷の主婦たちが「区民大会」をまき込んで「米よこせ」の運動をおこし、宮城まで、デモ行進をしたのをきっかけに、あいついで婦人たちの立ちあがりが方々でおこった。

灰色の谷間

敗戦をむかえた日本の婦人たちの気持ちには、複雑なものがあつた。急激に縮小された軍需工場や重要産業から婦人たちは、ぞくぞくと街頭に下げ出され、何をもつて生活を支え、何によつて子供たちを養つて行けばよいのか、不安と反感といらだちがあつた、これは婦人達だけでなく一般市民にも特に無産層の人達にとつては猶更であつたといえよう。こうした状況の中に於い

てさえ支配層の動きは対蹠的で、彼等は卑屈で迎合的で追従的な姿勢をもつて上手に取りいり結びつく術を心得ていたし、婦人たちもまたこれまでの慣習のなかで、貧しい女達がこうした結びつきの道具にされる危険さを必至的に感じとつていた。

どん底にあえぐ

一九四五年（昭和二〇）の八月一八日無条件降伏の公表があつて、わずか三日目に警視庁保安課では、この日花柳界業者の代表を集め、やがて上陸していく進駐軍のための売春施設について協議し、株式会社 R.A.A. 協会（特殊慰安施設協会）が結成され、警視庁はこれを認可した。政府と業者との策謀による公娼が生まれたのである。

業者たちは国庫の補助金をえて、慰安婦の募集にかけめぐつた。募集広告は戦後処理の国家的緊急施設、新日本女性を求む」と記されていた（労働省婦人少年局資料より）。

業者らの活躍はすさまじかった。彼等は、恐怖と不安におののいている貧農や無産者の娘たちを、彼女らの家父長から買入るところに全力をあげた。彼女らは微発され買いあげられて接待婦にさせられた。彼女等は「國家的使命」の重人性といううたて前に悲鳴をあげ抵抗しながら従わせられたのである。なかには、今日を明日を家族が生き

る為と哀願されて売られてパンパンにさせられた人達、また、やりどころがない憤まんから自分で自分を売るものさえ出てきたのであつた。

女性を守る会発足

米兵のあいだに性病が蔓延したことは占領軍をあわてさせた。この対策について、自國兵士を守る立場から、その対策は嚴重をきわめ、アメリカ兵のジープがたえずパトロールし、街娼と一般女性の区別なく検束し、うむをいわせず検診所に送りこんで強制検診を実施した。このような不当な検査、検診したのは一九四六年（昭和二一）の一月のことであった。京都では

一九四五年（昭和二〇）九月五日の京都新聞に「連合軍京都進駐・市民の心得るべきこと」という興味ある記事がのつた。

① 進駐軍は多くの自動車を使うであろうが、その速度はきわめて速いので、街では歩道・車道の別を敵にしきること」という興味ある記事がのつた。

② 婦女子は何よりもモンベの着用が大切である。それも男子のズボンに似たものでなく、モンベ本来の悠然たる良さを多くとりいれた形がよい。

③ アップ・アップ姿や、公衆の前の授乳はもつともつしみ、素膚がでないようになら。

④ 防空上の必要から取りはずされた格子戸や、門扉、板塀などは至急とりつけ、戸締りを厳重にすることが望ましい。

子供は車道で遊ばせないこと。

② 婦女子は何よりもモンベの着用が大切である。それも男子のズボンに似たものでなく、モンベ本来の悠然たる良さを多くとりいれた形がよい。

③ アップ・アップ姿や、公衆の前の授乳はもつともつしみ、素膚がでないようになら。

④ 防空上の必要から取りはずされた格子戸や、門扉、板塀などは至急とりつけ、戸締りを厳重にすることが望ましい。

京都の婦人たちは、この混乱とみじめさの中で、戦時中の労働の実践によって目ざして、自立での自信をもつた女性たちは、勇敢に立ち上り始めた。敗戦後のめざましい婦人運動や農村の根強い活動は、このような自覚と、たくわえてきたエネルギーを土台として発展していった。

（前頁の四段目より）

見込み違いか、お互いが後へひけない立場にたつた。中立であつた米国は、英國よりも血は水より濃いというが、持てる側は、最後には持てる側に立つと見るべきであろう。この状況を冷静にうけとめていふ、イタリア、アイルランド、デンマーク等の存在は貴重である。持てる国と持たざる国、持てる国民と持たざる国民、人間の世界に、強者と弱者、貧者と富者が生れるのはさけがたいが、政治や経済のゆがみかじめで、それが戦争といふ形で、根源、それが戦争といふ破壊と殺人で、根本的に解決されるわけではない。

第一次大戦は、戦争をなくすための戦争といわれた。第二次大戦はファシズムから自由を守るために戦争といわれた。この紛争が人類の破滅の戦争に、エスカレートしないことを願わずに居られない。

（一九八二・五・二二）

戦時中「鬼畜米英」とたたきこまれ敵軍の本土上陸にそなえ、最後の身の処しかたを覺悟させられた婦人にとつては必然的なこととして受けとめられた。

九月二一日に米軍調査隊の下検分があり、九月二五・二六日の両日にかけて京都に進駐してきた。学校は休日となり、米軍の通過する道路は通行止めとなつた。

京都の婦人たちは、この混乱とみじめさの中で、戦時中の労働の実践によって目ざして、自立での自信をもつた女性たちは、勇敢に立ち上り始めた。敗戦後のめざましい婦人運動や農村の根強い活動は、このよう

部落解放運動について (2)

木村京太郎

人間尊敬と水平運動

私は「水平社創立宣言」を読むたゞ
限りない感激に打たれる。「人間を尊
敬することによって自らを解放する」
の一句は力強く私を奮い起させた。そ
して集団運動を起こせるは寧ろ必然であ
る」と、水平運動の歴史的意義を力強
く感じたのであった。

私が御所高等小学校在学中は、教師
からは、一般生徒と席を別にされ、掃
除当番は部落のものと組合わされる。
また生徒たちから四ツ、エッタ、新平
民などの言行によつて賤視、差別され
る。また、部落の青年が町に出て、飲
食店、劇場、床屋、共同浴場に入りる
うとしても入場を拒否される。さらには
町において靴屋、牛肉店を営もうとし
ても家は借用できない。都會に出て職

私が御所高等学校在学中は、教師からは、一般生徒と席を別にされ、掃除当番は部落のものと組合わされる。また生徒たちから四ツ、エッタ、新平民などの言行によって賤視、差別される。また、部落の青年が町に出て、飲食店、劇場、床屋、共同浴場に入り、うとしても入場を拒否される。さらに町において靴屋、牛肉店を営もうとしても家は借用できない。都會に出て職を求めて、ゴミ取り、肥くみ、掃除夫、浜仲仕などの職にしかつけない。こうした個人的にも社会的にも屈辱に耐えねばならなかつたのである。私の少青年時代はこうした屈辱と忍耐の生活であった。

私は大正十一年五月、大正高等小学校での差別事象、小林水平社の大衆的な抗議運動として、差別生徒の処分・受時訓導の引責辞職一学校内での差別待遇の廃止の三要求を決議し、学校側と交渉中、之を拒否する校長、学校を脅迫す

水国争鬭事件



(お願い)

一九八一年、二年の会費、誌代未納の方はお払込みをお願い申上げます。

都村の街頭で「あれはこれや」と指四本で部落差別を表示した事象があつたこの問題は国粹会員の介入によつて水

会費、誌代、カンパなど左記の各位
からご納金いただき有難うございます。
(順不同、敬称略)

三	二	二	二	五	二	五	三	三	二	五	二	二	二	三	二	三	三	三	一	二	二	四	
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	六	○	○	○	
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	一	五	○	○	
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	
鄭	小	谷	西	村	橘	木	田	中	平	林	山	口	橫	村	庄	正	之	廣	三	(伏見)	赤	松	
詔	文	(北区)	修	(与謝)	清	三	豐	藏	清	(東京)	山	口	東	山	診療所	(右京)	(下京)	(大阪)	(伏見)	(北区)	明	（左京）	
文	(北区)	（以下）	次号	山	本	野	内	海	足	鹿	西	村	堀	山	本	松	永	上	京	病	院	（東京）	（羽曳野）
三千子	務	義	夫	幸	覚	喜	望	浩	二	(北区)	(左京)	(左京)	(左京)	(北区)	田	中	伊	達	義	三	郎	（福岡）	（中京）
次号	（東京）	（中京）	（羽曳野）	(米子)	(左京)	南	江	善	兵	衛	(伏見)	(横浜)	(横浜)	(横浜)									

事務局だより
領収書に代えて